

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2473100259
法人名	有限会社 楽らく
事業所名	グループホーム 楽らく
所在地 (電話番号)	南牟婁郡紀宝町成川谷ノ川1076-5 (電話) 0735-28-1221
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 3 月 17 日(月)

## 【情報提供票より】 (H20年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 16人, 非常勤 6人, 常勤換算	19.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~59,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷 金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
または1日当たり 円				

### (4) 利用者の概要( 2 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	1 名	要介護2	7 名			
要介護3	7 名	要介護4	3 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	85 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	紀南病院 相野歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>県最南端、和歌山県との県境となっている熊野川が近くに流れ、その川沿いを走る国道42号線から少し入った静かな住宅街の中にある。近くには小学校があり、子供たちの歓声が時には聞こえてきそうなどところでもある。利用者本位に徹したサービスと利用者と職員が共に楽しく暮らすアットホームな感じが良く、自治会の大掃除や小学校の運動会等の地域の活動に参加し、地域の人との交流にも積極的に取り組んでいる。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題である浴室への手すりの設置や相談・苦情窓口の明示の改善等の取り組みが行なわれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員の意見を集約する中で行い、ケアの見直しの機会としている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヵ月に1回程度開催し、利用者の状況や事業所の行事、外部評価の結果等について報告しながら、外部の目を通して事業所運営について話し合い、意見を出してもらっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見や苦情が言い易い家族との関係づくりに努めると共に、面会時には意見や苦情を聞くようにしている。事業所のホームページに意見を書き込めるようにもしている。又、運営推進会議に家族の代表が参加し、意見が反映できるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の大掃除等に参加すると共に近くの小学校の運動会や町社協のイベント等地域の行事にも可能な限り参加し、地域の人達と交流を深めるよう努めている。又、日本舞踊や盆踊りの指導に地域のボランティアに来てもらったりもしている。</p>

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心楽しく、気楽に」を基本理念とし、利用者と職員が共に楽しめる事業所づくりに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関を入ったところの壁に基本理念が掲示され、ミーティングや職員との個別面談の際等にも理念を徹底し、理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の大掃除等に参加すると共に近くの小学校の運動会や町社協のイベント等地域の行事にも可能な限り参加し、地域の人との交流を深めるようにしている。又、日本舞踊や盆踊りの指導に地域のボランティアに来てもらったりもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員の意見を集約して行ない、外部評価についても職員に伝え、ケアの見直しの機会として取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回程度開催し、利用者の状況や事業所の行事、外部評価の結果等を報告し、外部の人の目を通して事業所の運営について話し合い意見を出してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者と事業所の利用状況などについて随時情報交換し、制度面等の解らないところについて指導してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等には、インターネットを利用してリアルタイムで利用者の暮らしぶりが見られるようにしている。家族等の面会時にも近況報告し、遠方で面会にこられない人には、月一度は電話で報告している。	○	インターネットが利用できない家族等もいると思われ、家族等との結びつきをより深めていくために、事業所の行事や利用者の暮らしぶりを伝える「ホームだより」や「手紙」の定期的な発行が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情が言い易い家族等との関係づくりに努めると共に、面会時には意見や苦情を聞くようにしている。事業所のホームページにも苦情や意見が書き込めるようにしている。又、運営推進会議に家族の代表が参加している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の移動は出来るだけしないようにしている。離職は試用期間中のケースが多いが、長く努めた職員が退職する場合は、退職日までに利用者へ徐々にそのことを知らせていくなどして、利用者への影響を少なくするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県グループホーム協議会の研修会をはじめ事業所外での研修会には、なるべく多く参加するようにしている。パソコンに研修プログラムを入れて各自が随時研修できるようにしている。	○	職員研修の充実が図られてきているところですが、職員の採用時研修や介護福祉士等の資格取得の奨励等を行い、職員の段階に応じた職員研修体制の一層の充実を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会へは参加しているが、地域の同業者との交流の機会は殆んどない。	○	地域の共通課題への取り組みや相互のサービスの向上を図るため、地域の同業者との連携、交流を図るための取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接に十分な時間を取り、本人との信頼関係を築くことに心がけ、利用開始日は家族にも泊まってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買物、料理の配膳や後片付けなどを利用者と一緒に行い、利用者と職員が共に生活を楽しむ関係となるようよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、常に一人ひとりの思いや意向を把握するよう努め、利用者が主人公との心構えで支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の接触の中で本人の求めていることを引き出しながら、家族や本人をよく知っている関係者からの情報や意見を取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に介護計画の見直しを行なうと共に、利用者の状況の変化に対応して随時見直しを行なっている。	○	定期的にケア会議を開催することを検討されていますが、職員全員でモニタリング、カンファレンスを行なっていくことが、より質の高いサービス提供につながっていくものと思われるので期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望があれば、家族も事業所に宿泊できるようにしている。又、紀南高校のインターンシップも受け入れている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医への受診支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的なケアが必要となる時までは対応する方針だが、重度化や終末期に向けた対応については今後の課題となっている。	○	事業所としての重度化や終末期に向けての方針を明確にししながら、重度化や終末期のあり方については、早い段階で本人、家族等と話し合い方針を共有しておくことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	子供に対するような言葉や上から物を言わない等言葉使いに気をつけ、利用者が主人公との心構えで支援している。居室への出入りは勝手にせず、必ず本人に声を掛けてから行なうようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食、夕食は希望の時間に出来るようにしている。その日その日の生活は、一人ひとりのペースに合わせて、生活に張りや潤いのある支援に心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や後片付け等を手伝ってもらい、食事は利用者と職員と一緒にこなしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が出来、入浴時間も自由に行っている。拒否的な人には、タイミングを見計らって勧めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来る事、出来ない事を記録に残し、出来る事は本人に行なってもらうようにしている。カラオケ、生花、地域のイベントへの参加等一人ひとりの趣味や希望に副いながら支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散髪、散歩等の外出支援と共に、月に1～2回程度、リフト車を利用してドライブをしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、夜間以外鍵を掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導を受けながら、防災訓練を実施している。非常時における応援を地域の区長へお願いしている。	○	現在行なっている防災訓練は昼間の災害の訓練となっているので、夜間を想定した訓練も必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、本人の状態に応じた支援を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度に花を飾り、玄関には職員が作った雛人形を置く等季節感も出しながら安らげる共用空間となるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの椅子や持ち込みの箆笥などが置かれ、その人らしい居室となるよう配慮されている。		